

### C. 資料提示の効果の検討

前述の回帰式を元に、3ヶ月後と7ヶ月後の初回献血のオッズ比を求めると以下ようになる。

表3 7ヶ月後の理論予測値と輸血現場レポートの対比  
献血に肯定的な意見、否定的意見を持つものを対象にした場合

調査時	種類	献血者/未献血者	O.R.	95%C.I.	
3ヶ月後	輸血場面提示-1	41/1229	8.44	3.32	~ 21.43
	日赤統計	5/1265			
7ヶ月後	輸血場面提示-1	59/906	6.92	3.41	~ 14.03
	日赤統計	9/956			

次に先行研究は痛みに関する簡単な資料を提示したもので、かつ、献血に好意的な意見を持つ者を対象に解析した。この場合は1192名の中で3ヶ月後には23人が、7ヶ月後には74人が実際に献血を行っていた。

この値と今回の輸血現場レポートの比較を行なうと、献血協力意向が肯定的な者に限った場合、表に示すように、3ヶ月後でO.R.=1.70(1.01-2.84)、7ヶ月後でO.R.=1.38(C.I. 0.93-2.01)となった。つまり、3ヶ月後では有意であるが7ヶ月後では有意ではなかった。献血に好意的な意見を持つ者に輸血現場の資料の提示をする場合に3ヶ月までは効果があると考えられる。

表4 7ヶ月後の理論予測値と輸血現場レポートの対比  
献血に肯定的な意見を持つもののみを対象にした場合

調査時	種類	献血者/未献血者	O.R.	95%C.I.	
3ヶ月後	輸血場面提示-2	33/705	1.70	1.01	~ 2.84
	先行研究	23/1169			
7ヶ月後	輸血場面提示-2	47/515	1.38	0.93	~ 2.01
	先行研究	74/1118			

輸血場面提示-2:臨床現場での輸血をする状況を提示(今後の献血の協力意思 肯定的のみ対  
先行研究:H17研究で献血の基礎的情報や痛みの程度を提示(今後の献血の協力意思 肯定的

### D. まとめ

日本赤十字社の初回献血者の数と国勢調査の人口を組み合わせ、年齢別の人口あたりの初回献血者率を求めた。本年度の追跡調査の965人では、日本全国の19-26歳と同じ条件であれば1年で15人、3ヶ月では9人が初回献血をすると予測した。

従来の献血者募集方法である日赤統計と比較して、O.Rは3ヶ月後で8.44(3.32-21.43)、7ヶ月後で6.92(3.41-14.03)と増加していた。この結果より未献血者に具体的な輸血状況を示す資料は初回献血者の増加に効果的であることが明らかとなった。

## E. 参考文献

- 1)総務省の住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数（平成 18 年 3 月 31 日現在）  
[http://www.soumu.go.jp/c-gvousei/xls/020918\\_sasi3.xls](http://www.soumu.go.jp/c-gvousei/xls/020918_sasi3.xls) 2008/4/1 アクセス
- 2)日本赤十字社血液事業年度報 平成 18 年度統計表（PDF 版）  
<http://www.jrc.or.jp/active/blood/pdf/18nendohou.pdf>  
p10 年代別男女別初回献血者数初回献血率 2008/4/1 アクセス
- 3)生存時間解析 SAS による生物統計：大橋靖雄、浜田知久馬、東京大学出版、2005
- 4)学会論文発表のための統計学：浜田知久馬、真興交易医書出版部、2000
- 5)ロジスティック回帰分析：丹後俊郎、山岡和枝、高木晴良、朝倉書店、2004
- 6)H17 年国勢調査：第 3 表、年齢（各歳）、男女別人口、年齢別割合、平均年齢及び年齢中位数（総数及び日本人）  
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001005118&cycode=0> 2008/4/1 アクセス
- 7)若年層献血意識に関する調査結果報告書：厚生労働省医薬食品局血液対策課  
<http://www.bm.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/7n.html> 2008/4/1 アクセス
- 8)大阪府、平成 18 年度 ネットパル(インターネット府政モニター)アンケート、「献血に対する意識について」の調査結果  
[http://www.pref.osaka.jp/koho/monitor-q/h18\\_10.html](http://www.pref.osaka.jp/koho/monitor-q/h18_10.html) 2008/4/1 アクセス

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 研究論文

報告書作成時点(2009/4/1)でなし

### 学会発表

H20-7 にまとめて記載

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

## 資料提示による初回献血者数増加要因の検討

分担研究者 岩本 晋 徳山大学福祉情報学部 教授

### A. はじめに

今回、我々は献血未経験者を対象にした3回にわたるネットの調査で19-26歳の献血経験の有無のデータを入手した。この調査は19-26歳の若年層の無作為抽出調査と仮定できるので、このデータからわが国の初回献血者に影響を及ぼす要因を検討した。

分析方法としては主任研究者田久浩志の分析と、分担研究者今井常彦の分析結果を参考に、基本的要因である性別、年齢群、婚姻の有無、子供の有無、最初の献血に対する意識、今まで献血をしなかった理由、献血をする条件、資料提示後の最終的な意見を用い、それらの各種の質問項目を説明変数として、献血が実際に行われたかどうかの違いを目的変数として男女別でロジスティック回帰で検討した。

### B. 対象と方法

対象となったのは主任研究者の報告で用いたのと同じデータである。今回は、献血に否定的な意識を持つ者も対象とし、より具体的な資料提示をした場合の、献血行動に影響を及ぼす影響は不明であるので、その検討を行った。献血の必要性に対する意識は9割が肯定回答しているので除外した。

資料を見せた都度の意見が、数ヵ月後の献血行動に影響を与えるとは考えにくいので、最終的な意見を対象としかつ、献血にくるような回答を誘導している危険を除外して「2A\_Q8. (2) 今は献血に協力する気持ちがある」のみを、最終意見として用いた。

回答は4段階であるが、順序ロジスティックで詳細な検討を行っても現場レベルでの実践に応用しにくいので4段階の順序尺度を12と34の2段階の名義尺度に変換して解析した。

潜在的な献血者から実際の献血者になる要因を調べるため、表に示す複数の質問項目と、献血実施の有無を男女別で検討しオッズ比を求めた。

この場合、変数の選択が問題になる。今回は多くの内容の質問をしているため、1. 実際の献血行動に結びつく内容、2. 相関の高い変数は避ける、の2点を基準に変数を選んだ。

用いた変数を以下に示す。

#### 最初の意識の状態

2A\_Q2. 今後の献血協力意向

2A\_Q3. 献血会場や献血バスとの接点

#### 今まで献血をしなかった理由

2A\_Q4. 献血が何に役立つかわからない

2A\_Q4. 注射が痛い

2A\_Q4. 献血会場の場所がわからない

2A\_Q4. 貧血、服薬、病気などでできない

2A\_Q4. 知人から「物好き」など否定的意見を言われた

2A\_Q4. なんとなく不安

- 2A\_Q4. 面倒
- 2A\_Q4. 機会がない
- 2A\_Q4. 健康面への影響が心配
- 2A\_Q4. 感染などが心配
- 2A\_Q4. 海外渡航、輸血経験等の制限のため

#### 献血をする条件

- 2A\_Q5. 血液がどう役立っているか理解できる
- 2A\_Q5. 注射が痛くない
- 2A\_Q5. 献血会場の場所がわかる
- 2A\_Q5. 貧血や病気の症状が改善する
- 2A\_Q5. 献血行為が尊敬される
- 2A\_Q5. 不安感がなくなる
- 2A\_Q5. すぐに採血してくれる
- 2A\_Q5. 献血会場が沢山ある
- 2A\_Q5. 健康面への影響がほとんどないのが理解できる
- 2A\_Q5. 献血経験を履歴書に書ける
- 2A\_Q5. 献血ルームで一定時間駐車料が無料になる
- 2A\_Q5. 周囲が誘ってくれる
- 2A\_Q5. 記念品や無料のお菓子、ジュースがもらえる

#### 資料提示後の最終的な意見

- 2A\_Q8. (2) 今は献血に協力する気持ちがある

### C. 結果と考察

#### C-1 男性の場合

献血会場がわかれば、献血します、という人はかえって初回献血をしなかった  $O.R.=0.43$ 。これは自分から積極的に献血会場を探そうせず、偶然、場所が分かったら献血するという態度をとっているとも解釈できる。しかし、献血会場の場所を示さなくて良いという理由にはならない。積極的に献血会場の場所をPRする努力は今後も必要である。

表1 献血行動に影響を与える要因 男性の場合

項	オッズ比		信頼区間	
今後の献血協力意向	4.32	1.96	～	10.58
献血会場の場所がわかる	0.43	0.21	～	0.87

## C-2 女性の場合

いままで、知人から献血に対して否定的な意見を言われて献血を未経験であったものは、今回の資料で正しい知識を得たためか、オッズ比は9.20と有意に高かった。また、献血する条件として献血行為が尊敬されるようになれば献血に行くと言ったもののオッズ比も3.58と有意に高かった。これは本人が献血の内容を理解して納得したために実献血に至ったと考えられる。

その一方で、処遇品を理由に挙げたものは、かえって実献血に至っていないかった。これは建前上で、もしそのような条件が満たされれば献血に行くと言ったとも考えられる。

表2 献血行動に影響を与える要因 女性の場合

項	オッズ比	信頼区間
知人から「物好き」など否定的意見を言われた	9.20	2.70 ~ 27.90
献血行為が尊敬される	3.58	1.32 ~ 10.76
記念品や無料のお菓子 ジュースがもらえる	0.34	0.13 ~ 0.92

## D. まとめ

ロジスティック回帰による分析結果の結果をとりまとめると、実献血に至る理由には本音と建前があり、男性の場合の献血会場がわかる、女性で処遇品をもらえる、の理由は建前であることが明らかになった。但し、献血会場の場所を積極的にPRするのは今後の広報活動として重要であると考えられる。その他の有意な意見をみると、インフォームドコンセントと同様に、献血未経験者が説明を受けて納得し同意するのが重要であると考えられる。それは、知人から「物好き」など否定的な意見をいわれた、献血行為が尊敬される、などのオッズ比が有意に大きい事からも裏付けられる。本研究で取り上げたように献血の重要性の分かる物語をテキストに、献血の大切さを理解する学習機会を今後、積極的に増やす必要がある。

## E. 健康危険情報

なし

## F. 研究発表

研究論文

報告書作成時点(2009/4/1)でなし

学会発表

H20-7 にまとめて記載

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

## ネット調査による献血経験者への資料提示の効果

-回答者の基礎的背景について-

分担研究者 今井 常彦 東邦大学医学部 講師

### A. はじめに

従来我々は、献血未経験者に輸血現場の実情を示す資料を提示した場合に、どの程度の実献血者が増加するかを検討し、その効果を報告した。しかし、献血経験者に同様の資料を提示した場合、献血回数は増加するか、何かしらの効果がみられるかについては不明である。そこで、献血経験者に献血場面の具体的な資料を提示した場合の効果について検討した。

### B. 対象と方法

ネットの調査会社(株式会社ヤフーパブリックインサイト社)の協力を得て、日本全国を対象とした19歳から26歳までの者を対象に調査を行った。事前調査として、年齢が19~26歳の献血経験者で、献血に協力する気持ちはある、現在は疾患服薬などがなく献血に協力をしようと思えば可能である献血経験者600人を対象にした。具体的な献血の履歴を調べるために、手元に献血カードがあるもののみを対象とした。

回答者には調査の趣旨を説明し、参加は本人の自由意志であり、参加したくない者は参加しなくてもよいこと、個人の特定ができる調査でないことなどの倫理的配慮をした。

調査内容は、H19-20年にかけて行なった、未献血者への調査に準じた質問をした。調査内容は、今までの献血の回数、直近の献血日、献血への理解の程度、献血への協力の意思などを質問した。その後、回答者を、Type-A、何も資料を提示しないコントロール群、Type-B、交通外傷の輸血と新生児の輸血の場面を示した情報提示群に分け、情報提示の有無を制御した。その後で情報提示群には下記の1-5の内容を質問した。

1. 読む前よりも献血の必要性を強く思う
2. 今は献血に協力する気持ちはある
3. 今後、実際に献血に行く
4. 献血会場や献血バスを見かけた場合の協力意向
5. 時間的余裕がある場合の協力意向

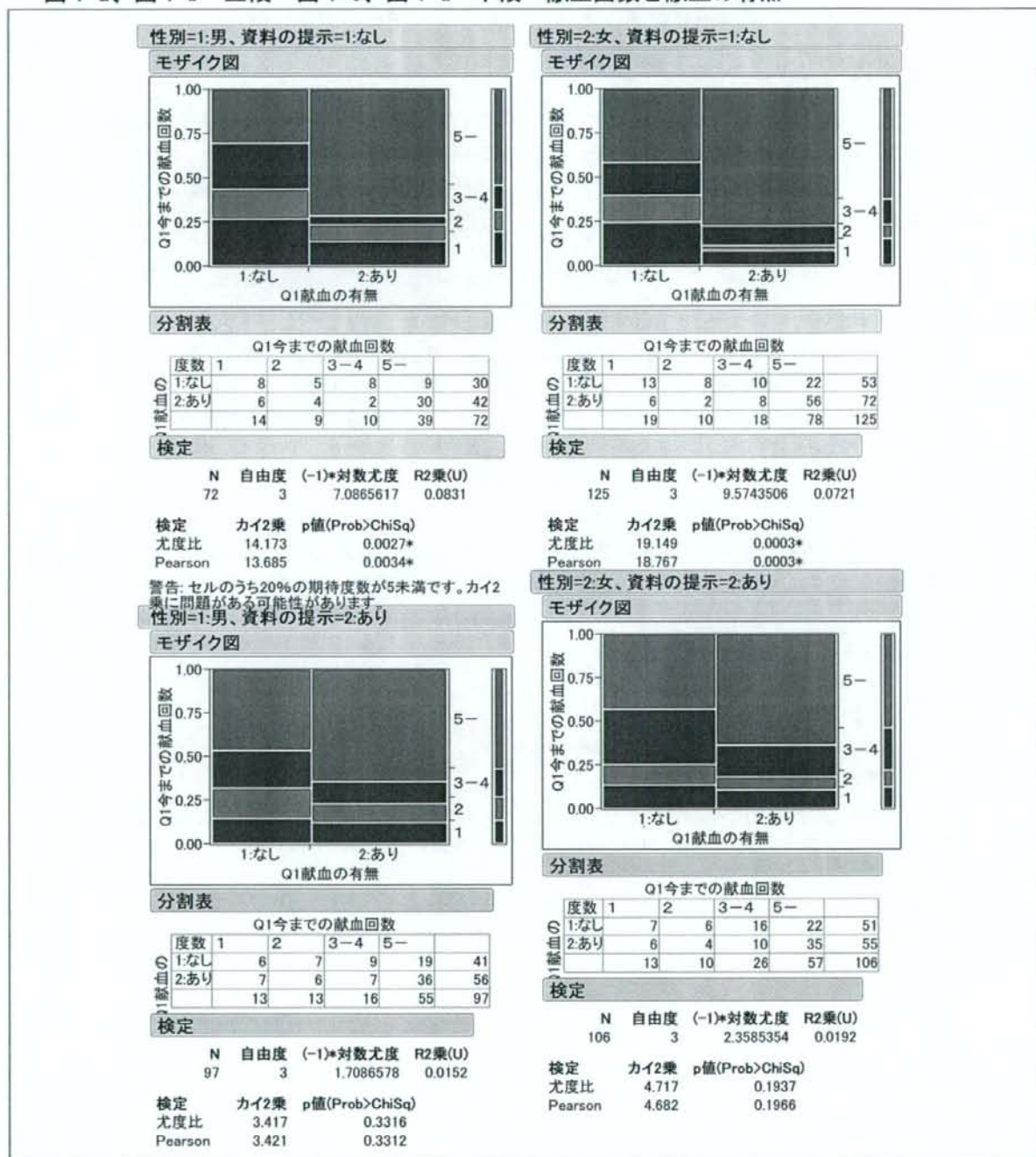
最初の調査はヤフーパブリックインサイト社が設定したWEBの上で2008/9/1から9/3にかけて600人を対象に行った。次に、途中の回答の脱落者を考慮して6ヶ月後の2009/3/5から3/8にかけて追跡調査を行いコントロール群197人、情報提示群203人の合計400人から回答を得た。

## C. 結果と考察

### C-1. 今までの献血回数と献血の有無

最初の調査の600名に対して6ヶ月後の追跡調査ではコントロール群、情報提示群各々200名、合計400名からの回答を求めた。この6ヶ月間で資料提示無しで献血なし83名、献血あり114名、資料提示ありで献血なし93名、献血あり111名であった。

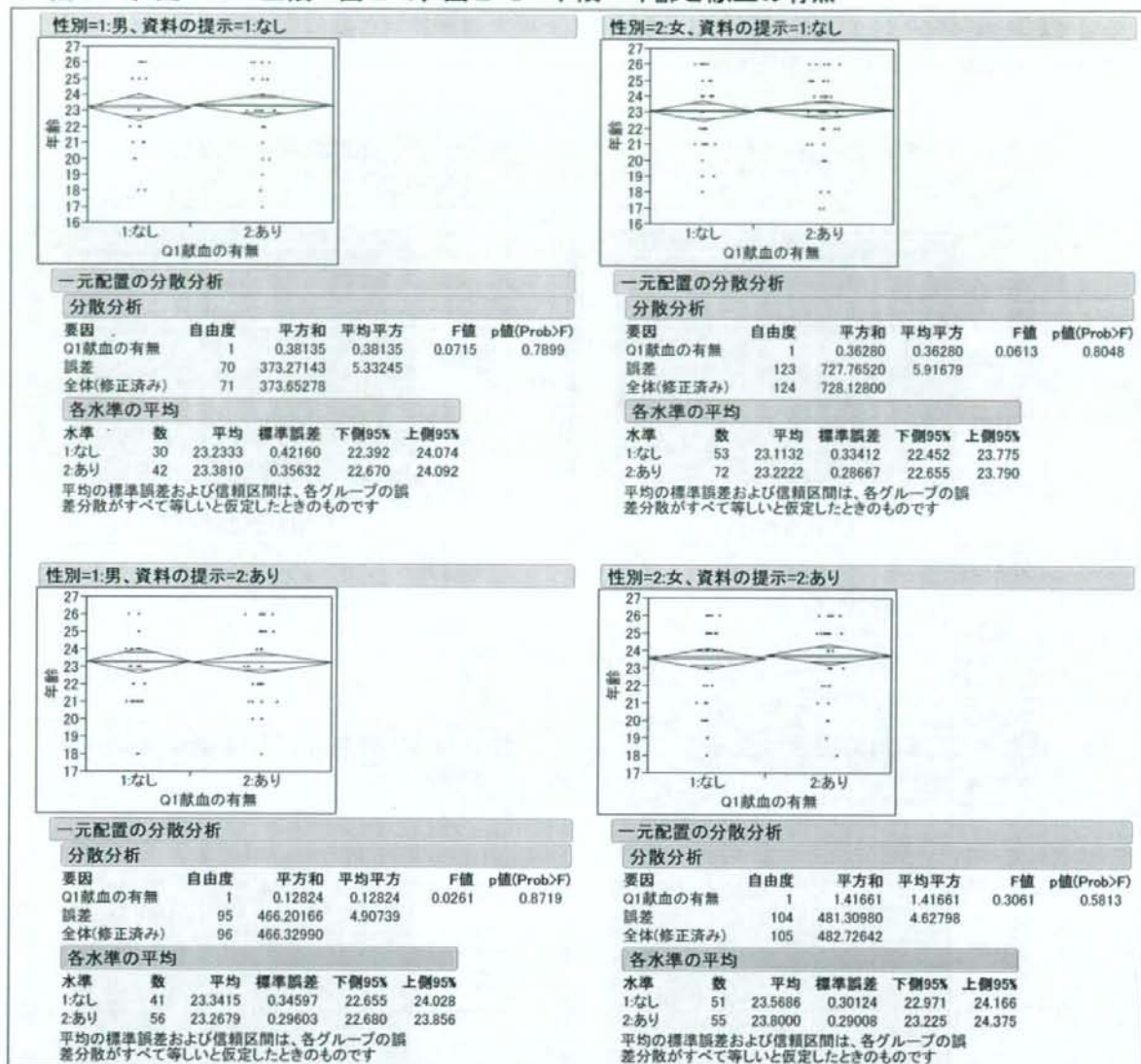
図1-a、図1-b 上段 図1-c、図1-d 下段 献血回数と献血の有無



## C-2. 年齢と献血の有無

資料の提示の有無、男女の違いで年齢に有意差があるかを t 検定で検討したが、有意差は無かった。

図 2-a、図 2-b 上段 図 2-c、図 2-d 下段 年齢と献血の有無





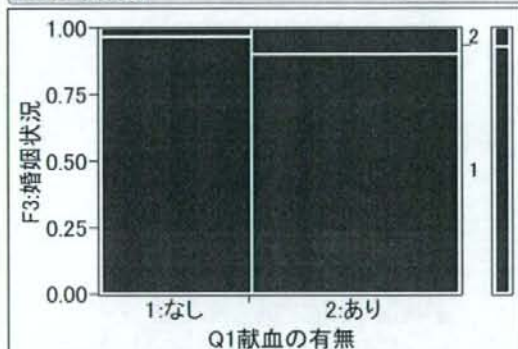
### C-3. 婚姻状況と献血の有無

資料の提示の有無、男女の違いで婚姻状況に有意差があるかをカイ2乗検定で検討したが、有意差は無かった。

図3-a、図3-b 上段 図3-c、図3-d 下段 婚姻状況と献血の有無  
婚姻 1:独身 2:既婚 3:結婚経験あり

性別=1:男、資料の提示=1:なし

モザイク図



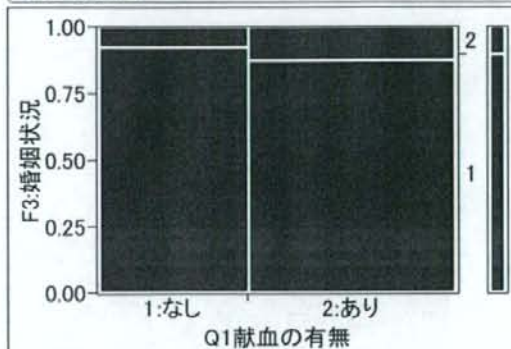
分割表

		F3:婚姻状況		
		1	2	
Q1献血の有無	1:なし	29	1	30
	2:あり	38	4	42
		67	5	72

n.s.

性別=2:女、資料の提示=1:なし

モザイク図



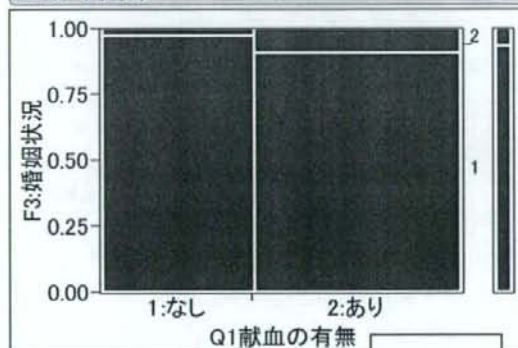
分割表

		F3:婚姻状況		
		1	2	
Q1献血の有無	1:なし	49	4	53
	2:あり	63	9	72
		112	13	125

n.s.

性別=1:男、資料の提示=2:あり

モザイク図



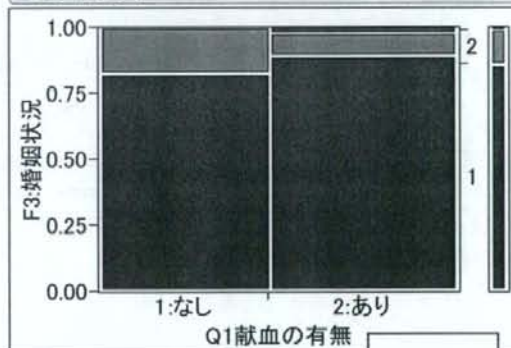
分割表

		F3:婚姻状況		
		1	2	
Q1献血の有無	1:なし	40	1	41
	2:あり	51	5	56
		91	6	97

n.s.

性別=2:女、資料の提示=2:あり

モザイク図



分割表

		F3:婚姻状況			
		1	2	3	
Q1献血の有無	1:なし	42	9	0	51
	2:あり	49	5	1	55
		91	14	1	106

n.s.

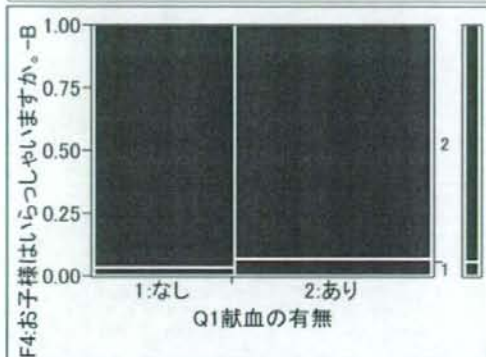
#### C-4. 子供の有無と献血の有無

資料の提示の有無、男女の違いで子供の有無に有意差があるかをカイ2乗検定で検討したが、有意差はなかった。

図4-a、図4-b 上段 図4-c、図4-d 下段 子供の有無と献血の有無  
子供の有無 1:はい 2:いいえ

性別=1:男、資料の提示=1:なし

モザイク図



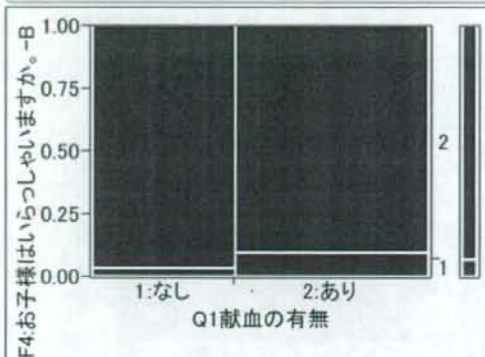
分割表

F4:お子様はいらっしゃいますか。-I

Q1 献血の	度数		
	1	2	
1:なし	1	29	30
2:あり	3	39	42
	4	68	72

性別=2:女、資料の提示=1:なし

モザイク図



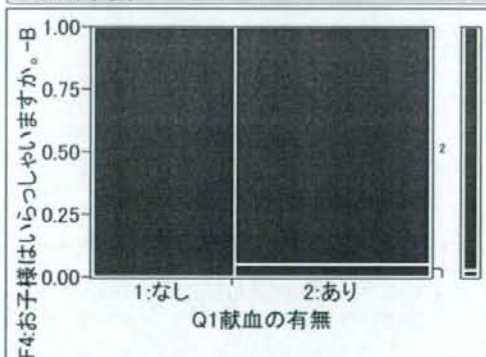
分割表

F4:お子様はいらっしゃいますか。-I

Q1 献血の	度数		
	1	2	
1:なし	2	51	53
2:あり	7	65	72
	9	116	125

性別=1:男、資料の提示=2:あり

モザイク図



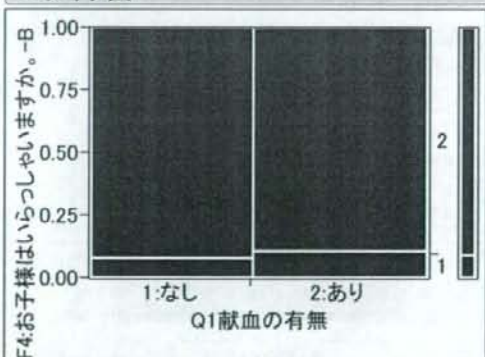
分割表

F4:お子様はいらっしゃいますか。-I

Q1 献血の	度数		
	1	2	
1:なし	0	41	41
2:あり	3	53	56
	3	94	97

性別=2:女、資料の提示=2:あり

モザイク図



分割表

F4:お子様はいらっしゃいますか。-I

Q1 献血の	度数		
	1	2	
1:なし	4	47	51
2:あり	6	49	55
	10	96	106

### C-5. 職種と献血の有無

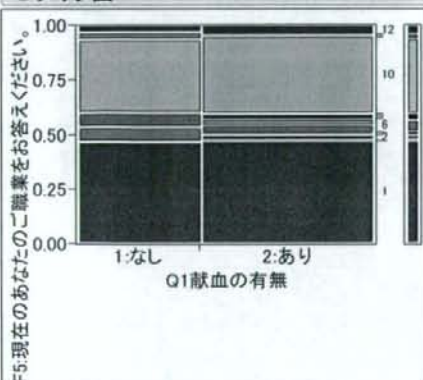
職業の種類と献血の有無との関係については、調査会社が使用している職業コード（後述）に基づいて求めた。既婚者（その他を含む）は男性で3.73%、女性で12.21%であった。献血した者は、1:会社員 6:パートアルバイト 9:無職 10:大学生に集中している。

職業分類 1 会社員 2 公務員 3 会社経営者役員 4 自営焦点 5 教育学校関係 6 パートアルバイト 7 派遣 8 専業主婦 9 無職 10 大学、大学院、専門学校生 11 浪人予備校生 12 高校生 15 その他

図5-a、図5-b 職種と献血の有無 男性

性別=1:男、資料の提示=1:なし

モザイク図



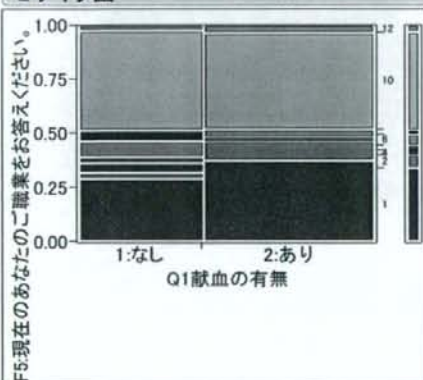
分割表

F5:現在のあなたのご職業をお答えください。

度数	1	2	5	6	7	9	10	11	12	
Q1献血の 1:なし	14	2	0	2	0	0	10	1	1	30
2:あり	20	0	1	2	1	1	15	0	2	42
	34	2	1	4	1	1	25	1	3	72

性別=1:男、資料の提示=2:あり

モザイク図



分割表

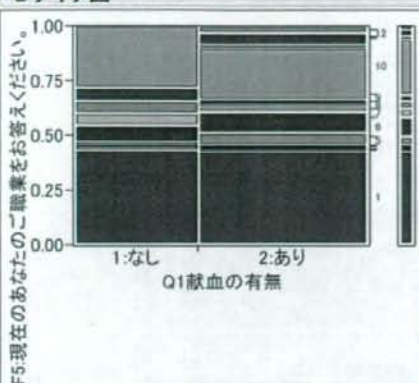
F5:現在のあなたのご職業をお答えください。

度数	1	2	4	5	6	9	10	12	
Q1献血の 1:なし	12	1	2	1	3	2	19	1	41
2:あり	21	5	0	1	2	0	25	2	56
	33	6	2	2	5	2	44	3	97

図5-c、図5-d 職種と献血の有無 女性

性別=2:女、資料の提示=1:なし

モザイク図



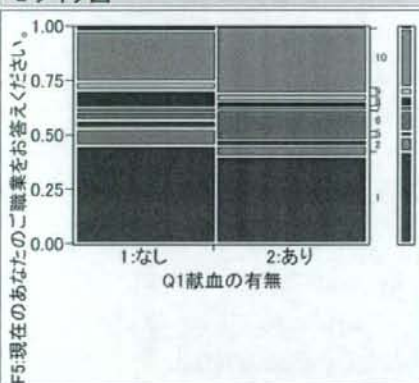
分割表

F5:現在のあなたのご職業をお答えください。

度数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
Q1献血の 1:なし	23	1	0	0	1	4	3	3	3	15	0	0	0	53
2:あり	31	0	1	1	4	7	2	1	1	17	1	4	2	72
	54	1	1	1	5	11	5	4	4	32	1	4	2	125

性別=2:女、資料の提示=2:あり

モザイク図



分割表

F5:現在のあなたのご職業をお答えください。

度数	1	2	5	6	7	8	9	10	13	
Q1献血の 1:なし	23	4	2	2	1	4	2	12	1	51
2:あり	22	3	1	8	1	1	2	17	0	55
	45	7	3	10	2	5	4	29	1	106

### C-6. 献血会場バスの視認頻度と献血の有無

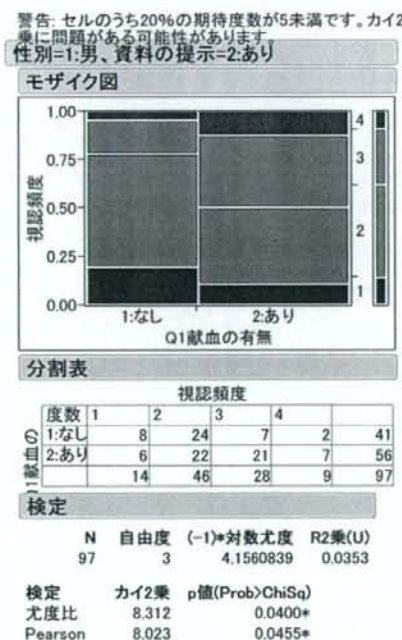
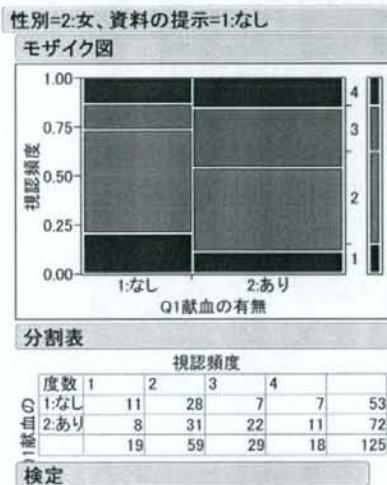
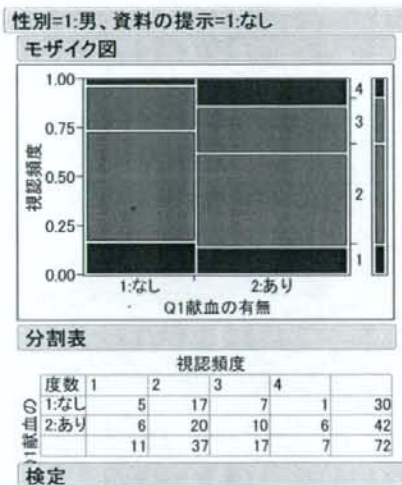
単に、献血会場を知っているかどうかを回答者に聞いても意味が無いため、通勤通学の途中、あるいは休日に出かけた繁華街等の日常の行動範囲で、献血会場や献血のバスを見かけるかという視認頻度について質問した。回答は、1:見かけない、2:たまに見かける、3:時々見かける、4:よく見かける、の4段階とした。

献血の有無と視認頻度とをカイ2乗検定で比較した。実献血者が少ないため期待度数が1つのセルで5以下

となり検定法にカイ2乗検定を用いたことに問題がある可能性もあるが、男性の資料提示群で、献血音有無と視認頻度に有意差があったが、他の群では無かった。

どの群でも、献血をした者が視認頻度の3、4が多い事から普段の視認頻度が献血行動に関係するとも考えられる。

図6-a、図6-b 上段 図6-c、図6-d 下段 会場バスの視認頻度と献血の有無  
視認頻度 1:見かけない 2:たまに見かける 3:時々見かける 4:よく見かける

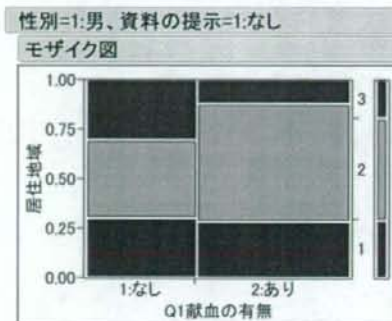


### C-7. 居住地と献血の有無

献血者の居住地の分類は、を調査会社が用いている 1:東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県、2:その他地域、3:大阪府・京都府・兵庫県・和歌山県・奈良県・滋賀県、の3種類のコードで分類した。カイ2乗検定を行うと、男では $p=0.403$ 、女では $p=0.305$ であり、危険率5%水準では有意差は認められなかった。

図7-a、図7-b 上段 図7-c、図7-d 下段 居住地面と献血の有無

居住地 1:東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県、2:その他地域  
3:大阪府・京都府・兵庫県・和歌山県・奈良県・滋賀県



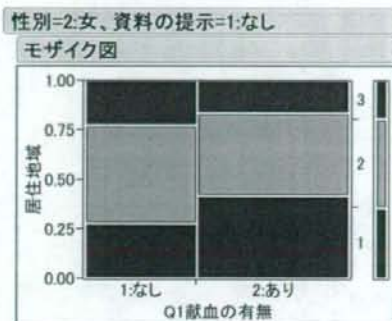
分割表

		居住地域			
		1	2	3	
Q1 献血の有無	1:なし	9	12	9	30
	2:あり	12	25	5	42
		21	37	14	72

検定

N	自由度	(-1)*対数尤度	R2乗(U)
72	2	2.1230657	0.0289

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	4.246	0.1197
Pearson	4.257	0.1190



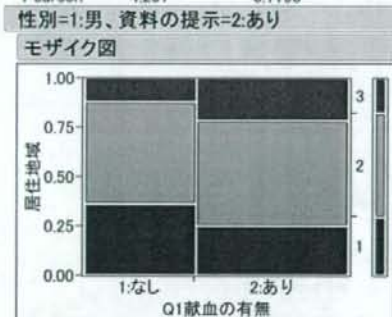
分割表

		居住地域			
		1	2	3	
Q1 献血の有無	1:なし	15	26	12	53
	2:あり	30	30	12	72
		45	56	24	125

検定

N	自由度	(-1)*対数尤度	R2乗(U)
125	2	1.2418520	0.0095

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	2.484	0.2888
Pearson	2.454	0.2931



分割表

		居住地域			
		1	2	3	
Q1 献血の有無	1:なし	15	21	5	41
	2:あり	14	30	12	56
		29	51	17	97

検定

N	自由度	(-1)*対数尤度	R2乗(U)
97	2	1.1360199	0.0117

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	2.272	0.3211
Pearson	2.239	0.3264



分割表

		居住地域			
		1	2	3	
Q1 献血の有無	1:なし	21	20	10	51
	2:あり	18	25	12	55
		39	45	22	106

検定

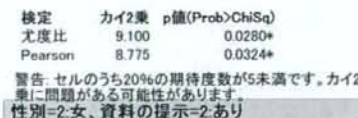
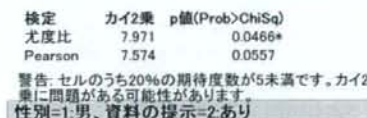
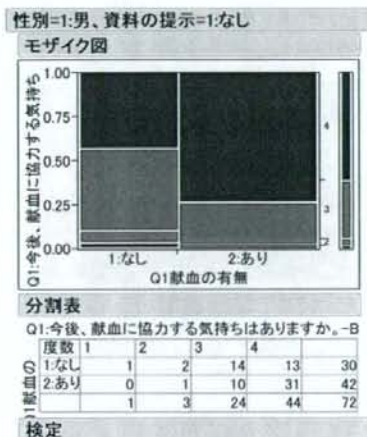
N	自由度	(-1)*対数尤度	R2乗(U)
106	2	0.40939596	0.0037

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	0.819	0.6641
Pearson	0.818	0.6642

## C-8. 今後献血に協力する気持ちと献血の有無

献血未経験者と異なり、献血経験者では、最初から今後、献血に協力する気持ちが肯定的なものが9割以上を占め、女性で資料を提示したものは献血の有無に関係なく全員が今後の献血に協力する気持ちは肯定的であった。今後の献血に協力する気持ちに否定的な意見を持つ者がごく僅かなのが献血経験者での特徴と考えた。

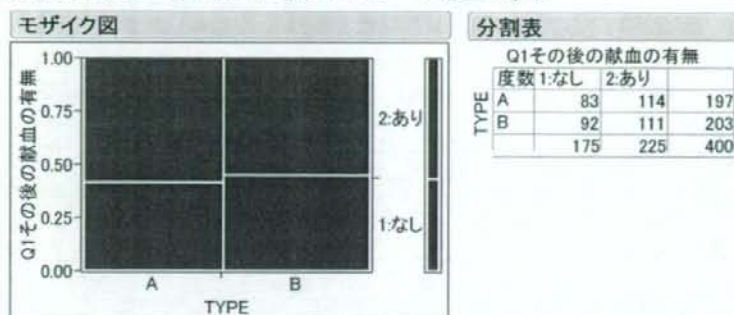
図8-a、図8-b 上段 図8-c、図8-d 下段 今後献血に協力する気持ちと献血の有無  
今後献血に協力する気持ち 1:いいえ 2:どちらかというといえ 3:どちらかというといはい 4:はい



### C-9 献血をする理由

資料提示の有無とその後の再献血の有無の関係を以下に示すが有意差は無かった。すでに、対象者は献血を経験しているため資料の提示程度では献血を行なう意志に影響を受けないとも考えられる。そこで献血をした理由を再度検討した。

図9 献血の有無と資料提示の有無 A:提示なし B:提示あり



献血をした者 225 名のその理由の程度（4段階）を聞くと以下のように、自分の血液が役に立ってほしいから、と検査結果が健康管理に役立つという回答が、はい（4）が50%を越えている。すでに献血を経験しているから、自分の献血が役に立って欲しいを理由にあげるのは当然である。しかし、検査結果が健康管理に役立つ点を献血した理由にあげている者が多いのは注目に値する。今回の提示資料は、輸血現場の実情を示したものであるが、この結果を元に考えると、あなたの検査結果のこの値はこのように役立つという内容を示す判りやすい資料を提示して、それにより献血が増加するかを検討する価値は充分にあると言えよう。

表1 献血をした者の献血をした理由

#### ラベルとデータの分割表に対する分析

##### 分割表

		データ				
ラベル		1	2	3	4	
度数						
行%						
	Q9M001:自分の血液が役に立ってほしいから-C	7 3.11	10 4.44	77 34.22	131 58.22	225
	Q9M002:輸血用の血液が不足していると聞いたから-C	13 5.78	22 9.78	98 43.56	92 40.89	225
	Q9M003:輸血の必要性を説明した資料を読んだから-C	49 21.78	52 23.11	73 32.44	51 22.87	225
	Q9M004:自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから-C	15 6.67	16 7.11	68 30.22	126 56.00	225
	Q9M005:過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから-C	125 55.56	25 11.11	36 16.00	39 17.33	225
	Q9M006:お菓子やジュースがもらえるから-C	28 12.44	26 11.56	90 40.00	81 36.00	225
	Q9M007:テレビやDVDが観れるから-C	84 37.33	39 17.33	66 29.33	36 16.00	225
	Q9M008:空いた時間を有意義に使いたいから-C	32 14.22	30 13.33	99 44.00	64 28.44	225
	Q9M009:なんとなく-C	37 16.44	38 16.89	102 45.33	48 21.33	225
		390	258	709	668	2025



#### D. まとめ

輸血現場を提示資料として献血経験者を対象にした6ヶ月にわたる前向き調査の結果、資料提示、男女の違いで献血動向に違いは見られなかった。回答者はすでに、献血を経験しているのである程度の知識を調査対象者は持っているため、資料の提示程度では行動変容を起さなかったと考える。従って未献血者と献血経験者では異なるプロモーション方法が必要になろう。今回の調査結果では、検査結果が健康管理に役立つ点を献血した理由にあげている者が多い点より、検査結果が健康管理にこのように役立つという資料を提示して、その効果を検討する必要がある。

#### E. 健康危険情報

なし

#### F. 研究発表

研究論文

なし

学会発表

H20-7に記載

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

## ネット調査における献血経験者への資料提示と献血に至る要因の検討 分担研究者 岩本 晋 徳山大学福祉情報学部 教授

### A. はじめに

我々はH17-18年には、未経験者に簡単な資料の提示をし初回献血者になる割合の検討を行なった。H18年には未経験者に簡単な資料と輸血現場レポートの提示し、初回献血者になる割合の検討を行った。H19年は初回献血者に具体的な輸血現場の資料を提示し、複数回献血者になる割合を3ヶ月追跡調査した。そしてH20年にその7ヶ月目の調査をした。

しかしながら、献血経験者に同じ資料を提示した場合に献血の回数が増えるかは明らかではない。そこで、献血経験者を対象にした輸血現場の具体的な資料の提示による献血増加を検討した。また、それと平行して献血経験者が献血に至る要因も検討した。

分析方法としては分担研究者今井常彦の分析結果を参考に、基本的要因である性別、年齢群、婚姻の有無、子供の有無、各種の質問項目を説明変数として、献血が実際に行われたかどうかの違いを目的変数として男女別でロジスティック回帰で検討した。

### B. 対象と方法

対象としたのは、分担研究者の今井の報告で用いたのと同じデータである。質問の詳細については今井の報告書を参照されたい。なお、献血未経験者と異なり、資料を提示しないコントロール群と提示した群の2群で比較を行なった。そのため未経験者を対象に用いた資料提示後の「今は献血に協力する気持ちがある」は、今回は抜いていない。

献血に関する意識の回答は4段階で回答した。各種の変数において連続尺度はt検定を、順序尺度は便宜的にカイ2乗検定で検討をし、資料提示の有無による群間の偏りを検討した。ロジスティック回帰を行うのに、順序ロジスティックで詳細な検討を行っても現場レベルでの実践に応用しにくいので4段階の順序尺度を1と2と3と4の2段階の名義尺度に変換して解析した。すでに献血を経験している者が、再度の献血をする要因を調べるため、後述する表に示す複数の質問項目と、献血実施の有無を男女別で検討しオッズ比を求めた。

### C. 結果

#### C.1 最初の状態といままで献血をした理由

実際的人数と性別の分布、年齢の平均値の関係を表1に示す。偶然、資料提示で女性が有意に多かった。

表1 資料提示の有無と基本属性

	資料提示なし	資料提示あり	
人数	197	203	
性別(男性の%)	36.6	47.8	p=0.023
年齢	23.2	23.5	n.s.

各種の質問内容と資料提示の有無との回答の分布を示す。どの質問でも有意差は認められなかった。

表2 資料提示の有無と質問内容

質問	資料提示	1:いいえ	2:ややいいえ	3:ややはい	4:はい	p
Q1:今後、献血に協力する気持ちはありますか。	1:なし	2	6	49	140	n.s.
	2:あり	1	3	47	152	
Q2:献血会場や献血のバスの視認頻度	1:なし	30	96	46	25	n.s.
	2:あり	29	90	61	23	
Q3M001:自分の血液が役に立ってほしいから	1:なし	3	8	81	105	n.s.
	2:あり	7	7	73	116	
Q3M004:自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから	1:なし	13	29	78	77	n.s.
	2:あり	21	23	74	85	
Q3M005:過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから	1:なし	121	22	32	22	n.s.
	2:あり	134	18	30	21	
Q3M006:お菓子やジュースがもらえるから	1:なし	29	29	89	50	n.s.
	2:あり	31	26	89	57	
Q3M007:テレビやDVDが観れるから	1:なし	80	57	42	18	n.s.
	2:あり	88	41	44	30	
Q3M008:空いた時間を有意義に使いたいから	1:なし	42	40	78	37	n.s.
	2:あり	38	35	82	48	
Q3M009:なんとなく	1:なし	32	34	87	44	n.s.
	2:あり	35	35	100	33	

## C-2. 今後献血をする条件

今後、献血をする条件と資料提示の関係を示す。どの項目でも有意差は認められなかった。

表3 今後献血をする条件と各種の質問

質問	資料提示	1:いいえ	2:ややいいえ	3:ややはい	4:はい	p
Q4M001:血液がどう役立っているか理解できる	1:なし	5	17	102	73	n.s.
	2:あり	9	26	93	75	
Q4M002:注射が痛くない	1:なし	23	26	61	87	n.s.
	2:あり	13	37	68	85	
Q4M003:献血会場の場所がわかる	1:なし	14	26	70	87	n.s.
	2:あり	7	30	81	85	
Q4M004:貧血や病気の症状が改善する	1:なし	23	49	74	51	n.s.
	2:あり	18	37	74	74	
Q4M005:献血行為が尊敬される	1:なし	25	58	72	42	n.s.
	2:あり	24	44	70	65	
Q4M006:不安感がなくなる	1:なし	21	50	74	52	n.s.
	2:あり	19	42	75	67	
Q4M007:すぐに採血してくれる	1:なし	10	29	87	71	n.s.
	2:あり	10	19	96	78	
Q4M008:献血会場が沢山ある	1:なし	8	35	77	77	n.s.
	2:あり	15	32	63	93	
Q4M009:健康面への影響がほとんどないのが理解できる	1:なし	10	30	87	70	n.s.
	2:あり	8	25	91	79	
Q4M010:献血経験を履歴書に書ける	1:なし	41	52	56	48	n.s.
	2:あり	44	38	53	68	
Q4M011:献血ルームで一定時間駐車料が無料になる	1:なし	41	39	46	71	n.s.
	2:あり	37	43	52	71	
Q4M012:周囲が誘ってくれる	1:なし	44	57	62	34	n.s.
	2:あり	39	53	63	48	
Q4M013:記念品や無料のお菓子、ジュースがもらえる	1:なし	8	17	79	93	n.s.
	2:あり	7	25	75	96	